令和５年度　輪之内町立福東小学校　　自己評価書

学校の教育目標	豊かな心　たくましい力のある子　～考える子　仲よくする子　やりぬく子～
経営の重点	自ら考え、主体的に学ぶ教育へ　○子どもの笑顔と輝く学校　○安全・安心な学校　○保護者や地域が愛し、誇れる学校

評価基準　A(3ポイント)：実践し、効果をあげることができた。　B(2ポイント)：実践し、一応の効果をあげることができた。
C(1ポイント)：実践し、僅かだが効果をあげることができた。　D(0ポイント)：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	評価	12月までの成果	来年度への改善策
【学校経営】全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営 地域との連携による学校づくり	A	○校長先生のリーダーシップのもと、「チーム福東」として、学校全体で統一すべきことなどを職員全体で把握することができた。 ○校区ふれあい文化祭では、学校運営協議会を中心としながら、外部の講師や中学生ボランティアなどの協力を得ることができ、良い会となった。 ○運動会や文化祭など地域の方と協力して行うことができた。 ○夏前よりも、効率良く業務に取り組むことができ、勤務時間の安定を図ることができた。 ○行事の簡略化や地域行事への参加は管理職が行うなど、管理職が率先して教員の負担軽減のために動いてくださるのは本当にありがたい。 ○毎月の勤務時間を把握し、目標を記入することで勤務時間内に執務をこなすためのモチベーションになった。	・早く帰る日には、職員全体で雰囲気を作り、軽重をつけた勤務を行っていく。
【研修】自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	A	○授業公開を行うにあたり、他の先生方に指導や国語科についてたずねることや、学習指導要領の読み込みを行い、研究があることで授業について深く考えることができた。 ○多くの学年の授業を見せていただいたり、授業研究をしたことで、自分の気付かなかった視点で考えることができた。 ○いじめに関する研修を行っていただき、具体的な対策もふまえながら話を聞けたので学びにつながった。 ○ICTの研修で学んだことを実践にいかすことができた。 ○研修のときには、グループ討議などを取り入れて全職員が意見を述べて参加できている。	・年度当初に研修計画を行事予定に入れておくと、担当者は見通しをもって計画的に進めていけると思う。 ・授業力向上の研修を、職員間でも行っていきたい。ベテランの先生から学ぶ機会を作りたい。 ・自ら課題を見つけて、それに対する研修に参加するなど、自分で学ぶ機会を作れたらよい。
【教科指導】基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	A	○子どもたちが主体的に学ぶことができるように、発問を工夫したり、指導過程を考えたりすることができていた。 ○ハンドサインの活用に全校体制で取り組むことができた。 ○国語科の研究を中心に、主体的で対話的な授業ができるように、指導案検討や、模擬授業などを行い、授業力の向上につなげることができた。 ○つなぎ発言やそれをするための反応学手が活発になった。 ○タブレットのグループ化をして交流を行ったり、ペアや班、立ち歩き方式で交流を行ったりして、誰かと意見を交流するということができた。 ○児童の学習状況を把握して、スモールステップで学習を進めるようにした。	・国語科を中心としたカリキュラム・マネジメントの視点をさらに磨き、単元指導計画に位置づけるなどしていくとよい。 ・個人追求や交流で得た意見を全体交流で発信する児童が多くなるような導きを行いたい。 ・さらに子どもに力をつけるための方法や見届けなどについては、職員間で交流し合えるとよい。
【道徳教育】自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方（命の大切さ）についての考えを深める道徳教育の充実	A	○動物愛護教室や野生動物出前講座などを通して、命の大切さについて考えさせることができた。 ○道徳のやり方を学年全体でそろえるなどして、自分の生き方を考える道徳を行うことができた。 ○自殺予防の授業などで、自分の命を大切にするための方法を考えることができた。	・学級ごとの道徳の授業を見合う機会を作りたい。
【外国語教育】外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	A	○外国語専科の先生と、ALTの先生の連携がうまくとれており、子どもたちが主体的にコミュニケーションがとれる授業実践がされていた。 ○専科の先生方が、児童の興味を引くようなトピックを提示したり、活動に取り入れてくださったりしているので、高い意欲をもつことができている。	・英語の力をつけることは難しい。大人でも身につけるのに苦労する。親しむことはできるが、さらにその上に行くことは難しい。 ・低学年では授業の流れを掲示したり、毎回45分のパターンを同じにしたりして、見通しのもてるような工夫が必要。
【総合的な学習の時間】探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	A	○総合的な学習の時間を核とした、教科横断的な単元指導計画を作成することで、他教科で活用した知識を総合的な学習に生かそうという意識をもつことができた。 ○環境学習の川の水や生き物を調査したり学ぶ活動をしたりすることを通して、輪之内町のことや輪之内町周辺(岐阜県)について学ぶことができた。 ○総合の発表に向けて、学んだことを伝えるために、振り返ったりさらに調べたりしている姿が見られたことがよかった。	・総合的な学習の時間の発表会に向けて、自分が何を学んできたかということを他者にわかりやすく伝える方法を考えていけるとよい。 ・単元指導計画に探求の視点を取り入れ、今何をするべき時間なのかを明確にしていく。 ・調べ学習だけではなく、体験を通して感じたことや人と関わって感じたことなどを発表できるとよい。
【特別活動】所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（ＱＵ検査の活用）	A	○各学級で目標を決めて取組を行い、達成を目指して活動していくことは、学級のまとまりを作ることにつながったと思う。 ○「自分と仲間を傷つける行動や言葉は許さない」ということを徹底して指導できた。 ○学級をよりよくするためにはどうしたらよいかを学級代表が中心となって全体で話し合い、「ぽかぽか言葉」を増やす取り組みを行うことができた。取り組みを通して、ポジティブな言葉や温かい言葉が増えた。 ○学校全体や学級独自の取り組みを行い、よりよい学校生活を目指している。 ○望ましい人間関係を築けるように、具体的な場で支援することに努めた。	・年度末には、次の学年の生活の様子を見学する活動を取り入れるなど、次学年の見通しを持たせる取り組みを行う。 ・かがやきカードを書く時間を設けたり、ペアの人のステキな姿を伝え合ったりと、場面を設定して「伝える」ことを行っていきたい。 ・良さ見つけで、仲間の良いところを見つけることはできても伝えることがあまりできなかった。 ・学年をこえた交流が少なく、他学年の様子を児童が知る機会が少ない
【生徒指導】共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	A	○児童間のトラブルがあったときに生徒指導のリーダーシップのもと迅速な対応・情報共有がされている。 ○些細なことでも生徒指導に相談しやすい雰囲気がある。 ○打ち合わせで気になる児童の交流を取り入れることで、自分の学年だけでなく、他学年の様子を共通理解することができた。 ○自殺予防の授業などを通して、SOSの出し方なども指導できた。 ○支援員の先生や他の先生に相談しながら、児童の姿や様子を把握するよう努めることができた。 ○子どもたちの話を聞いて、人間関係の問題の解決を図ろうとすることができた。 ○にこにこアンケート・教育相談の実施が確実に行われている。	・SCの校内巡視からの記録が各担任に確実に共有できていないため、意見をいただいても学級での対応に反映されにくいので回覧の仕方を考える。
【キャリア教育】社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付けと事前・事後指導の充実（キャリアパスポートの活用）	B	○町探検や、菊の栽培体験で地域のことを知ることが、地域のことを愛し、よりよい大人になろうという意識を育てることができた。 ○町探検や懸崖菊、技能者体験など多くの活動を取り入れることができた。 ○社会見学を多く行い、消防署、自動車工場、水族館などいろいろと見学して、人々の職業を考えることができた。 ○「この学年の頃に自分がどんな姿になっていたいか」を話に取り入れたり、目標として掲げたりしながら、児童たちが「これから」について考えることができるように指導を心がけた。	・キャリアパスポートに児童が何を書いているかということを家庭へ持ち帰って、保護者に見てもらう機会があるとよい。 ・キャリアファイルをどのように使っていくのかということを、キャリア担当から方針を出していく。 ・「どんな大人になりたいか」「どんな自分になりたいか」など、もう少し先の将来について考える、語る時間を設定する。
【健康安全教育】運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	感染症対策を講じた上での、体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	A	○つよいぞぎふっこプロジェクトやトップアスリート出前講座などで外部の指導者にいろいろな運動の仕方を教えてもらったことは、今後の指導に役に立つと思う。 ○寒い日もあるが、業間休みは全員外に出て身体を動かすことができた。 ○係が学級レクを提案するようになり、昼休みもレクがある日は全員外で元気に遊ぶことができている。 ○休み時間元気よく外で遊ぶ姿がたくさんある。 ○命を守る訓練に向けた事前打ち合わせや、終わった後の反省を確実に行い、児童の命を守るための最善策を考えることができた。 ○感染予防の呼びかけを受け入れ、手洗いやマスク着用など自分で感染対策をとる姿勢がみられる。	・地震があったこともあり、自分ができることや、備えを意識しておく必要がある。 ・ケガが減るような指導を行うことが必要である。 ・感染症の予防のために、手洗い、消毒、うがいなどをする。 ・業間休みなどの運動する機会を確保しているのはよいが、体力向上につながっているのか検証したい。
【特別支援教育】一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	A	○支援が必要な児童については、定期的に保護者との懇談を行うことで、保護者の考えを聞いたり、学校の方針を伝えたりすることができた。 ○コーディネーターはもちろん、管理職や教務、養護教諭など、たくさんの方が要援助児童に関わってくださるのはありがたい。 ○保護者との懇談も何度も行うことで、保護者の信頼を得ることにつながり、対策を考えることでその子のよりよい成長にもつながっている。 ○一人一人の教育的ニーズに応じて、保護者と協力して進めることができた。 ○校内支援委員会の実施や、個別の支援計画の作成、ケース会の実施などにより、一人一人の特性に合わせた支援を行うことができた。 ○授業の様子から児童の困り感をとらえ、支援員の先生や通級の先生に相談したり、把握してもらい支援していただいたりすることができた。 ○心配を要する児童の保護者に、懇談や電話等で児童の様子を伝えたり、家庭での状況を尋ねたりして支援につなげることができた。	・今後も困り感のある児童については保護者と連携して、最善な支援策を考えていく。
【人権教育】自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	A	○ひびきあい集会に向けた取組で、各学級で温かい言葉をかけることや仲間のよさを見つけることなどを行い、望ましい人間関係を作り出すことができた。 ○ひびきあい集会では、あいさつ、全員反応挙手を全校で取り組み、互いを尊重する心を育むことができた。 ○いじめ0宣言を作成し、いじめや差別を許さない学校の体制を作ることができた。 ○学級での「ぽかぽか言葉を増やそう」の取り組みを通して、言葉遣いが少しだけ良くなった。温かい言葉が増えた。	・いじめ0宣言の一つ一つが本当にできているのかどうかを、振り返る場を設けてはどうか。 ・教員から、全校の前でよさを広げる場を作れると、さらに学校の雰囲気がよくなると感じる。 ・「人権週間」をいかして、考えていきたい「人権」について児童たちに考えさせていく。
【ICT教育】児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ＩＣＴを有効活用した学習活動の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）	B	○他の先生方からタブレットでできることを学ぶことができた。職員室内で気軽に聞ける雰囲気もある。 ○他の学校からICTの活用の仕方を学んだり、それを同じ教科やできそうな授業で取り入れることができた。 ○授業の中でICTを使う機会が増えてきた。児童も3年目になり、タブレットを使いこなすことができている。 ○Google ClassroomやSkyメニューを活用して、タブレットで児童同士が交流をすることができた。 ○GIFUウェーブラーニング、ドリルパーク、漢字の書き順練習などができた。	・打ち合わせで情報教育の交流を行うなど、タブレット学習をより身近にする努力をしていく。 ・SNSトラブルの未然防止のために、児童向けの情報モラル指導の実施、保護者向けの教室の開催をするとよい。

【学校関係者評価】
・校外学習をしたり、外部指導者を呼んで学習したりする機会を多く設けたことが、児童にあこがれをもたせたり、苦労ややりがいを学ぶことにつながっている。これからもこの取組を継続して欲しい。
・教師のたゆまぬ努力のおかげで、児童たちは成長してきている。
・児童が落ち着いて取り組んでいる姿に成長を感じた。
・児童が周りの人々から大切にされていることで、自己有用感をもてるようになった。
・ありがとうの会を通して、学校が地域の人々に支えられていることを感じられた。

・昨年度との評価ポイントの差が何によるものなのかを検証するとよい。
・いじめ0宣言など、小学校で培ってきた人権意識が、卒業後も大切にされていくとよい。
・支援を要する児童への対応の仕方について、外部の専門家から指導を受けるとよい。